

平成27年度 自己評価計画書

							石川県立宝達高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考	
1	<p>分かる授業を 実践すること によって、基 礎学力の定着 と論理的・批 判的思考力の 育成を図り、 キャリア教育 の実践と3年 間の進路指導 態勢の充実を 図り、進路志 望100%実現 を目指す。 ・ICTや学び 直しの効果的 な活用と評価 及び言語活動 の充実を図 り、生徒の学 ぶ意欲を喚起 する。 ・学習規律を 遵守させる指 導を徹底し、 学習習慣の確 立を組織的に 指導する。</p>	各教科 教務課	<p>朝学習で基本事項の学習 をしたり、授業の中でも 学び直しの内容を積極的 に指導している。また、 石川県指定の「地域交流 による高等学校活性化事 業」で作成した国語・数 学・英語の学び直し教材 を活用している。</p>	<p>【努力指標】 学び直し教材の 効果的な活用を 図る。</p>	<p>学び直しのための教材を作成した り、活用した教員の割合が</p> <p>A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満</p>	C、Dの 場合、取 組につい て検討す る。	7月・12月 に調査 (職員アン ケート)	
			<p>2 教室にプロジェクター を常設し、ICT の利便性 を図っており、ICT を活 用した授業を行う教員が 増えている。</p>	<p>【努力指標】 ICTの効果的な 活用を図る。</p>	<p>職員が ICT を年間に活用した回数 が</p> <p>A：70回 以上 B：50回 以上 C：40回 以上 D：40回 未満</p> <p>ICT の活用により、学習意欲が高 まったと感じている生徒の割合が</p> <p>A：80% 以上 B：70% 以上 C：60% 以上 D：60% 未満</p>			
			<p>「学びの4か条」を掲 示し、挨拶や学習規律の指 導に努めているが、十分 とは言えない。学習意欲 を高める授業改善ととも に学習規律の確立に努め る必要がある。</p>	<p>【成果指標】 授業で学習規律 の確立を図って いる。</p>	<p>学習規律の遵守を指導している教 員と学習規律を守っている生徒の 割合が</p> <p>A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満</p>			
			<p>グループで討議したり、 「話す」「発表する」など 表現力を高める言語活動 を取り入れることによ り、思考力や表現力を鍛 える活動を充実させる必 要がある。</p>	<p>【努力指標】 生徒が発表する など活動する機 会を与えてい る。</p>	<p>言語活動の場面を設けている教員 の割合が</p> <p>A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満</p>			

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1	全校で取り組んでいる家庭学習教材の点検や授業で使用する課題プリント、週末課題等を生徒に提供し、計画的に学習に取り組ませる。	各教科 教務課 各学年	家庭学習時間30分未満の生徒が昨年度は平日で、33.0%で、前年より14.1%減少したが、60分以上学習する生徒は、13.1%と非常に少ない。家庭学習の定着に向けて組織的に取り組む必要がある。	【成果指標】 平日60分以上、休日120分以上の学習時間を確保するよう働きかける。	家庭学習時間が平日60分以上、休日120分以上の生徒の割合が A：70% 以上 B：60% 以上 C：50% 以上 D：50% 未満	C、Dの場合 取組について検討する。	7月・12月に調査 (生徒アンケート)
	生徒の進路意識を向上させ、早期に進路目標を設定することができるよう指導し、進路実現のために学習に主体的に取り組むよう、各学年のキャリア教育を段階的・系統的に関連付けて実施する。	進路指 導課 各学年	進路実現のために、基礎学力の底上げに継続的に取り組み、「卒業生と語る会」、「進路ガイダンス」(就職・進学)1年の「企業・大学見学」、2年の「インターンシップ」などを実施し、生徒の進路意識を高める取り組みを学年段階に応じて適切に行う必要がある。	【満足度指標】 生徒が各学年のキャリア学習が進路選択に役立っていると感じる。	各学年のキャリア学習が進路選択に役立っていると感じる生徒の割合が A：80% 以上 B：70% 以上 C：60% 以上 D：60% 未満	C、Dの場合 取組について検討する。	7月・12月に調査 (生徒アンケート)
	個々の生徒の思いや情報が把握できる面談シートを活用し、ホーム担任が個人面談を適時適切に行うよう努め、進路意識の向上と進路実現を目指す。	進路指 導課 各学年	個人面談が進路意識の深まりや進路学習に効果があったとする生徒の割合が昨年度は40%を下回ったので、面談を質・量ともに充実させ、生徒の進路決定や悩みの解消に努める必要がある。	【満足度指標】 個人面談が進路意識の深まりやキャリア学習への取組に役立つようにする。	個人面談が進路意識の深まりやキャリア学習への取組に効果があったとする生徒の割合が A：80% 以上 B：70% 以上 C：60% 以上 D：60% 未満	C、Dの場合 個人面談のあり方を検討する。	7月・12月に調査 (生徒アンケート)
	進路ガイダンス、模擬試験、補習、小論文、面接指導などの系統的・段階的な取組を実施し、生徒の進路志望100%実現を目指す。	進路指 導課 各学年	昨年度は、就職・進学とともに進路実現100%が達成された。大学志望者のうち国公立大に1名合格し、成果を上げた。事前指導や個別指導等のきめ細かい指導を継続的・効果的に取り入れ、今年度も進路実現100%を目指していく。	【成果指標】 生徒の進路志望が就職・進学とも実現できた。	生徒の進路志望の実現率が A：就職・進学の進路実現100% 国公立大合格者2名以上 B：就職・進学の進路実現100% 国公立大合格者1名 C：就職・進学の進路実現100% 国公立大合格者なし D：就職・進学の進路実現100%未 満 国公立大合格者なし	C、Dの場合 指導法の改善に努める。	12月・年度末に集計 (進路指導課)

重点目標		具体的取組		主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
2	基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚に努め、挨拶の励行と社会人としてのマナーやコミュニケーション能力を身に付けさせ、自ら考え、行動する自主自律の精神を持った社会人の資質を培う。		登下校指導を行い、教師が積極的に挨拶を交わし、全校挙げて生徒によるあいさつ運動の充実を図るとともに、身だしなみ（端正な制服の着こなしと頭髪）を守ることによって、社会人の一員としての自覚を促す。	生徒指導課 各学年	挨拶を交わし、言葉遣いに注意している生徒は、昨年度は75%で、積極的に大きな声で挨拶ができるよう取組の工夫が求められる。社会人としてのマナーや規範意識の高揚につながるよう、毎月の服装・頭髪検査で指導の徹底が求められる。	【成果指標】 挨拶の励行や身だしなみがきちんとしている。	生徒同士や職員、外部の来客や地域の方々に対し、自分から進んで挨拶ができ、服装・頭髪の身だしなみがきちんとしていると答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：75% 以上 D：75% 未満	C、Dの場合 取組について検討する。	7月・12月に調査 (職員・生徒アンケート)
			全教職員が協働して、遅刻ゼロ運動を進める。 ・各学年の遅刻ゼロ日数を生徒玄関に掲示する ・個別面談等を行い、個々の生徒の自覚を高める。	生徒指導課 各学年	遅刻者が減少するように、生活習慣の改善を促しながら継続的な指導をしてきた結果、昨年度は、全学年の遅刻ゼロ日数平均は60.1%であった。一部の教員の指導だけでなく、全職員で組織的に指導する必要がある。	【成果指標】 遅刻者ゼロ日数の割合が昨年度より10%増加することを目指す。	遅刻ゼロ日数指標 1学年 80% (155日) 2学年 85% (165日) 3学年 85% (145日) 遅刻ゼロ日数の達成率が A：各学年とも目標を達成した B：全学年が70% 以上 C：全学年が60% 以上 D：全学年が60% 未満	C、Dの場合 取組について検討する。	7月・12月に集計 (生徒指導課)
			悩みを持つ個々の生徒に応じたきめ細かな面談を行い、ホーム担任・教育相談担当、スクールカウンセラー、地域サポート教員等との連携をより密にすることで、解決に向けた効果的な支援を行う。	厚生課 各学年	さまざまな悩みを抱える生徒に対して、スクールカウンセラー、地域サポート教員等との連携を一層充実させ、積極的な支援が必要である。	【満足度指標】 校内支援体制が満足できるものになるよう働きかける。	生徒の悩みに先生が相談に応じてくれていると答えた生徒の割合が A：80% 以上 B：70% 以上 C：60% 以上 D：60% 未満	C、Dの場合 取組について検討する。	7月・12月に調査 (生徒アンケート)
3	生徒と積極的にかかわりを持ち、部活動の一層の活性化・充実を図る。		生徒会執行部や各種委員会、学級において、生徒一人ひとりが自らの役割を理解し、積極的に活動できるよう指導する。	生徒会課 各学年	各種委員会や学級などにおける生徒の仕事内容に対して、教員間で十分共通理解を図り、的確な指導をする必要がある。	【満足度指標】 所属する委員会や係の役割を理解し、活動に取り組むことができた。	所属する係の仕事を理解し、自分の役割を果たせたという生徒の割合が A：80% 以上 B：70% 以上 C：60% 以上 D：60% 未満	C、Dの場合 指導のあり方について検討する。	7月・12月に調査 (生徒アンケート)

石川県立宝達高等学校

重点目標		具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
3	学校行事、生徒会活動、部活動、地域への貢献活動やボランティア活動で、生徒の自主性や参加意欲、成就感を育てるとともに、宝達高生としての母校への帰属意識や自己有用感の涵養に努め、人間性や社会性を磨く。	生徒会と連携し、清掃の大切さを呼びかけ、美化コンクールを活性化して、環境美化への意識を高める。	生徒会課 厚生課	美化コンクール（年間3回）を実施し、環境整備委員により、自主的清掃活動への取組を呼びかけてきた結果、昨年度は80%まで肯定評価が高まった。全校挙げて、環境美化への取組の定着を図る必要がある。	【成果指標】 自主的に清掃活動に取り組む姿勢を培う。	進んで清掃活動に取り組んでいる生徒の割合が A：100% B：90% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	C, Dの場合 取組について検討する。	7月・12月に調査 （生徒アンケート）
		部活動の組織的運営を図り、積極的に部活動に参加し、年間を通して継続的に取り組むことができるよう指導する。	生徒会課 各学年	年度当初は全全部活動に参加するが、後半には部活動に消極的な生徒が増えてくる。年度途中で退部してしまう生徒への指導に努めることにより、積極的な部活動への加入の取組を促す必要がある。	【成果指標】 継続的に部活動に取り組む姿勢を培う。	年間を通して部活動に参加して部活動を行っている生徒の割合が A：100% B：90% 以上 C：80% 以上 D：70% 未満	C, Dの場合 指導のあり方を検討する。	7月・12月に集計 （生徒会課）
		生徒会や部単位での活動を主として、宝達・敷浪駅周辺の清掃活動をはじめ、地域への貢献活動やボランティア活動に積極的に取り組むことにより、生徒の成長を促す。	生徒会課 総務課 各学年	生徒は、地域への貢献活動やボランティア活動に対する意識が高いとは言えず、一部の生徒の活動になっている。年々活動は盛んになりつつあり、昨年度は64%の生徒が活動に参加した。今年度は、活動回数を多く実施することによって、ボランティア活動に対する地域貢献の意識の高揚を図ることが求められる。	【成果指標】 地域への貢献活動やボランティア活動に取り組む生徒数を増やす。	地域への貢献活動やボランティア活動に取り組んだと答えた生徒の割合が A：80% 以上 B：75% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	C, Dの場合 指導のあり方を検討する。	7月・12月に集計 （生徒会課）

石川県立宝達高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
4	積極的に保護者や地域に本校の良さや成果等の情報、提案等を発信するとともに、小・中学校との連携を一層密にし、保護者や地域に信頼される開かれた学校づくりを推進する。		学校からの配付物を保護者に渡す指導を今後も徹底すると同時に、メール配信システムを導入し、活用することで、配付物を含めた学校情報を確実に保護者に届ける。	総務課 各学年	学校からの配付物を必ず保護者に届けている生徒は4割に達していない。今年度新たに導入する保護者・生徒によるメール配信登録者割合を高めるなど、開かれた学校づくりに積極的に取り組む必要がある。	【満足度指標】 学校情報が保護者にきちんと届くように働きかける。	配付物を保護者に届けた生徒の割合と、学校情報を知ることができた保護者の割合は、それぞれが A：80% 以上 B：75% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	C, Dの場合 指導のあり方を検討する。	7月・12月に調査 (保護者・生徒アンケート)
			情報提供は、文書やHPの更新を通して、きめ細かく発信するとともに、地域や中学校等を対象にした情報発信にも努め、全職員が中学校を訪問し、生徒募集に努める。	総務課 各学年	昨年度は、PTA会報を2回、宝高だよりを3回、中学生向けの宝高タイムズを11回、学校便りを4回発行した。また、学校行事に関するHP更新は30回で、82行事を発信することができた。タイムリーに情報発信していくことが求められる。	【成果指標】 きめ細かな情報発信を計画・実施する。	宝高だより、学年だより等の紙媒体の発行回数が A：20回以上・35回以上 B：15回以上・30回未満 C：いずれかがB基準を下回る D：いずれも B基準を下回る	C, Dの場合 取組について検討する。	7月・12月に集計 (総務課)